

顔の見える
木材での家づくり

2011年版

グループ **65** 選



顔の見える木材での家づくりグループ65選

2011年版



木構造振興株式会社

「顔の見える木材での家づくり」グループ65選

—— 住まい手とともにすすめる

家づくりの推進に向けて

本年度は、2010年版として公表された「顔の見える木材での家づくり」グループ50選に掲載されたグループの再評価を行うとともに、昨年引き続き、住まい手の方々に国産材や地域材、並びにその地域の自然素材や技術を使用した家づくりを実践しているグループをより広く紹介するために、追加グループの公募、選定を行いました。

こうした推奨グループの選定は、今年度で3年目となりますが、今回も各地域の「顔の見える木材での家づくり」グループから多数の応募が寄せられました。いずれも森林や木材との関わりを通じて、森林所有者、素材生産者、森林組合、木材加工業者、設計士、大工、工務店などの地域関係者によるさまざまな連携形態により、住まい手とともに家づくりを熱心に取り組むグループからの応募でしたが、①住まい手に対する活動内容②グループ内の技術向上等の活動内容③提供住宅の設計・施工・保証体制、などの観点から選定委員による厳正な審査を行った結果、新たに15グループを追加することとなりました。

今回の選定で、2011年版「顔の見える木材での家づくり」推奨グループは、65選となりましたが、各地にはまだまだ活発に活動しているグループが数多く存在しています。本冊子を通じて国産材や地域材を生かした家づくりを行う活動の熱意が住まい手の方々に伝わるとともに、「顔の見える木材での家づくり」の取り組みがさらに活発になることを願っています。

本冊子は、平成22年度林野庁補助事業「住宅分野への地域材供給シェア拡大総合対策事業」における「地域材を使った家づくりの普及」の一環として作成いたしました。「顔の見える木材での家づくり」推奨グループ選定委員を始め、ご協力いただいた関係各位に厚くお礼を申し上げます。

平成23年2月

木構造振興株式会社

代表取締役 西村勝美

選定委員

委員長

安藤直人（東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）

委員

阿南 久（全国消費者団体連絡会 事務局長）

岩崎敏之（湘北短期大学 生活プロデュース学科 教授）

大倉靖彦（株）アルセッド建築研究所 代表取締役副所長）

西村勝美（木構造振興（株） 代表取締役）

細貝一則（社）全国木材組合連合会 企画部長）

山辺豊彦（有）山辺構造設計事務所 所長）

「顔の見える木材での家づくりグループ」とは

近年、「安全・安心・健康な住宅」に高い関心を持つ人が増え、全国各地でこの要望に応える取り組みが活発になってきました。

木材生産者、製材業者、木材販売業者、大工・工務店、建築士など家づくりのプロたちが地域ごとにネットワークを組み、国産材や、その地域の自然素材を多用した家づくりを進めています。

こうしたネットワークでは、家づくりのプロたちと住まい手のつながりが明確で、住宅の木材・建材の産地まで分かる「顔の見える木材での家づくり」が行われています。

- 国産材、地域材を使う5つのメリット**
- 1 森林が整備され、土砂崩れなどの災害が防げます
 - 2 木材を地産地消することで、地域の経済を活性化します
 - 3 輸送にかかる燃料の無駄を省けます
 - 4 木は木材となつてからも吸収した二酸化炭素を放しません
地域の木材をたくさん使えば大気中の二酸化炭素削減に貢献できます
 - 5 地域の気候風土に合った家づくり、まちづくりができます



「家づくりグループ」の主な活動内容

ここで紹介する「顔の見える木材での家づくりグループ」は、さまざまなイベントを開催するなど、住宅の品質や技術の向上のための活動を積極的にを行っています。グループごとに内容や特徴は異なりますが、主だった活動に次のようなものが挙げられます。

住まい手への情報提供・サービス

家を建てるようと考えている人たちにに向けて、ホームページなどを通じて情報発信し、自然に親しむイベント、住宅見学会などを開催し、木材と木造住宅の良さや特徴を五感で体験できる機会をつくっています。また、住まい手のネットワーク化にも取り組み、日々の手入れや修理などについてのケアを行っています。



森林で開催されたイベント

地域の自然素材・技術の活用

地元の木材を積極的に使うだけでなく、土壁、漆喰、和紙など、その地域にある自然素材も積極的に用いて、健康に永く住み続けられる家づくりをしています。また、伝統的な工法を取り入れ、大工、建具、左官など、職人の技術を継承する場をつくっているグループもあります。



自然素材を生かした和室

品質向上に向けた取り組み

品質向上のための勉強会



多くのグループが、設計基準、施工基準、検査基準などを独自に定めています。メンバー同士で定期的に勉強会を行うなど、技術や知識の研鑽に取り組みながら、住宅の質の向上を目指しています。

連携による前向きな取り組み

木材供給者から大工・工務店まで、メンバーが連携することで、部材を開発したり統一したりと、家づくりの効率化・合理化を進める動きもあります。低価格でありながら、本物志向の住宅を企画するグループもあり、初めて家を建てる、若い子育て世代にも支持されています。



住宅の一次取得者に好評な企画住宅



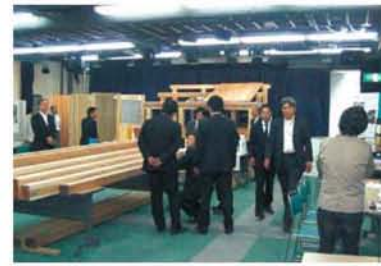


大阪

SSDプロジェクトユニオン

選評

品質・性能が保証された独自のグレーディング材の供給とそれを活用した家づくりの連携を高く評価した。今後の住まい手へのアプローチに期待したい。



年2回、メンバーの建築家主催で住宅相談会の開催(大阪ガス株協賛)。その折、会員工務店向け各種セミナーも行う。一方で会員工務店において現場見学会、構造見学会なども行っている。

国産無垢材の安定供給を目指す

当グループの前身となる「SSDプロジェクト」は、品質保証された国産無垢材を構造用部材として安定供給することを目的に、平成18年、木材提供に関わる異業種企業により結成されました。木材乾燥などの技術開発と一貫通貫の供給体制の構築によって、熊本県上球磨地方の杉・檜を機械等級選別し、現実的な価格で関西地区で提供しています。そしてこの構造用無垢材(グレーディング材)を合理的、効果的に活用した品質確保住宅の普及を目指し、建築家、工務店などの新たな会員を迎え、平成21年に「SSDプロジェクトユニオン」としてリニューアルしました。当グループは、四つの安心提供システムとして、「1・グレーディ

平成21年に採択された「長期優良住宅先導的モデル事業」対象住宅。合板・集成材を一括使用せずに耐震性能を確保。無垢材と自然素材による良質な住環境を確保する。空間の連続をシンプルなデザインで表現した。



【岸和田土生 SSD200の家】
所在地 ●大阪府岸和田市
構造 ●木造2階建(在来軸組工法と金物工法の複合法)
建築面積 ●104.3㎡
床面積 ●1階57.96㎡ 2階46.34㎡
竣工 ●平成22年11月20日
設計 ●DID一級建築士事務所 式田 完
施工 ●ムツミ建設
概算坪単価 ●65万円

ング材対応構造計算提供」「2・自然素材の建材提供」「3・出来高完成保証と4回の施工検査実施」「4・住宅履歴管理システム提供」などのサポートサービスを住宅供給者とユーザー双方に行い、国産材の活用をすすめ、シェアの拡大とそこに至るまでの啓蒙活動を行っています。

資産価値のある家づくりのために



中村 健司 代表

長期優良住宅の推進など、今後の住宅供給はユーザーの多様なニーズに対応しながら「資産価値のある家づくり」の実現が必須となります。これには、住宅性能の確保のみならず、良好な住環境や良質なデザインなどの提供も求められ、このような住宅に対して国産木材がいかに貢献できるかが、普及拡大の課題であると考えます。

私どものグループはこの課題に対して、自然素材である国産無垢材を明確な品質確認・表示の上、安定供給することに対応し、加えて、産地と消費地をつなぐことで、地方経済の活性化、地域間格差の是正や一定の範囲での循環型社会の形成に微力ながら貢献するべく地道な活動を続けていきます。

●SSDプロジェクトユニオン

〒556-0021 大阪市浪速区幸町3丁目5-24 TEL 06-6568-0118 FAX 06-6568-0395 E-mail ssdp@venichu.co.jp http://www.ssdp.jp

グループ概要

【結成】平成21年6月

【受注実績】●平成21年/25棟●累計/25棟

【グループ構成】素材生産者、木材生産者、製材業者、大工・工務店、建築家、その他木材加工業者、建材商社、運送業者